

令和8年2月20日

大和町長 浅野 俊彦 殿

大和町総合計画審議会
会長 平岡 善浩

大和町第五次総合計画に基づく実施計画（前期計画）重点プロジェクト（まち・ひと・しごと創生総合戦略）の評価及び検証並びに大和町第五次総合計画等の改訂に係る審議について（答申）

令和6年12月18日付け和まち第166号で諮問のあったこのことについて、下記のとおり答申します。

記

1. 審議会の経過について

(1) 令和6年度第1回総合計画審議会（令和6年12月18日（水））

- ・町長より本審議会に諮問書が提出され、重点プロジェクト（まち・ひと・しごと創生総合戦略）の令和5年度事業実績の評価・検証、並びに大和町第五次総合計画の改訂について議論が行われた。
- ・昨今の社会情勢の激しい変化に的確に対応するため、本計画を1年前倒しで改訂することは妥当であるが、全国的な企業誘致の競争が激化する中であって、選ばれる町として勝ち抜くための施策展開が強く求められるとの意見があった。
- ・現行計画の策定の過程において、本審議会や策定懇談会等を通じ、幅広い関係者との間で活発な意見交換が行われたことは有意義であったが、今後もこれら多様な知見を計画に反映させ、より実効性の高いものとして推進していくことを強く期待するとの意見があった。

(2) 令和7年度第1回総合計画審議会（令和7年8月21日（木））

- ・大和町第五次総合計画等の改訂方針及び改訂草案に対する議論が行われた。
- ・子育てや教育、公共交通の充実など生活の質への切実な要望とともに、町の強みである地域資源や、まちづくりを担う人材を育てることで、町外の人をも惹きつける住み続けたいまちづくりを推進すべきとの意見があった。
- ・計画の策定を目的とせず、計画の実現を最優先とし、実効性をもった計画改訂を期待する意見があった。

(3) 令和7年度第2回総合計画審議会（令和7年11月25日（火））

- ・重点プロジェクト（まち・ひと・しごと創生総合戦略）の令和6年度事業実績の評価・検証、並びに大和町第五次総合計画等の改訂素案について議論が行われた。
- ・重点プロジェクト事業については、数値指標だけでなく、外部要因や具体的な実施内容を考慮した評価が必要であり、成果の可視化を求める意見があった。
- ・空き家等の対策、小学校の再編や学校・地域間の交流、自然・歴史・文化など地域資源の活用、インバウンドを踏まえた観光振興が重要であるとの意見があった。
- ・計画改訂にあたっては、町民の視点に立った分かりやすい資料作成、説明に努めるとともに、実行につながる具体的な取組を期待する意見があった。

(4) 令和7年度第3回総合計画審議会（令和8年2月18日（水））

- ・町民説明会及びパブリックコメントの結果を踏まえ、大和町第五次総合計画等の改訂原案について議論が行われた。
- ・数値指標は、設定における算出方法を明確にし、納得性の高い数値にするとともに、今後の推移や要因分析を継続的に議論する必要性について意見があった。
- ・クマ対策について、農業被害だけではなく、人身被害を防ぐための総合的な方針など具体的に記載すべきとの意見があった。
- ・地域別まちづくり方針に基づき、住民が主体的に課題を解決できるような組織づくりや、町民参画の仕組みが必要との意見があった。
- ・子どもや若者が戻ってきたくなるまちづくりの重要性が強調され、地域活動への若年層の参加や、産学官連携による魅力発信が提案された。

2. 総合計画の推進について

(1) 町民等の参画によるまちづくりの気運醸成について

総合計画の推進にあたっては、広く計画の周知・浸透を図ることが肝要である。町民、企業、各種団体等といった町の関係者（以下「町民等」という。）の理解と参画を促進し、計画の着実な実現を図るとともに、それぞれの地域に即した主体的なまちづくり推進に向けての気運を醸成すること。

(2) 進行管理の実施について

総合計画の実効性を確かなものとするためには、客観的な指標を用いた進行管理が重要である。今回新たに設けた数値指標については、定期的な進捗状況の点検と評価を行うとともに、今後の推移や要因分析を継続的に議論し、その結果に基づいた柔軟な進行管理に努めること。

(3) 改訂過程において寄せられた町民等からの意見、要望等について

総合計画の改訂過程で寄せられた数多くの意見や要望等は、見逃してならない貴重なものも多く、決して一過性のものとしてはならない。それら意見や要望等には真摯に向き合い、各地区の状況にも配慮しながら、継続して検討を重ねること。